

# 「岩手医科大学総合移転整備計画」への 当社の参画について



近年、医療機関の重要性がますます高まりを見せる中、当社はこれまで、高度な技術や確かな施工力が必要とされる病院施設分野において、多くの施工実績を積み重ねてきました。学校法人岩手医科大学様より当社の技術力を高く評価いただき、約17年間におよぶ「岩手医科大学附属病院総合移転整備計画(以下、「移転整備計画」)」の設備工事に当初から参画させていただくことになり、その移転整備計画の締めくくりとなる「岩手医科大学附属病院」の機械設備工事も当社が担当し、2019年7月に無事に竣工を迎えることができました。

本特集では、岩手医科大学様とともに歩んだ移転整備計画についてご紹介します。

## ■ 移転整備計画の概要

岩手医科大学様は開学以来盛岡市中心部の内丸地区で120年以上にわたりキャンパスと附属病院を構えて地域医療を支えてきましたが、施設の老朽化に加えて敷地が狭く拡張が困難なため、盛岡市中心部から南に約12Km離れた矢巾町への移転整備計画が2005年にスタートしました。その第一次事業として2007年に矢巾キャンパスが開設され、併せて薬学部が新設されました。2011年には第二次事業として医学部・歯学部の基礎講座・共同研究部門を移転し、わが国で初めて医学部・歯学部・薬学部の医療系三学部を同一キャンパスに備え、さらには2017年に看護学部が開設されたことにより、4学部が連携する名実ともに医療系総合大学となりました。そして、2019年に附属病院の移転を終え、移転整備計画が完了しました。

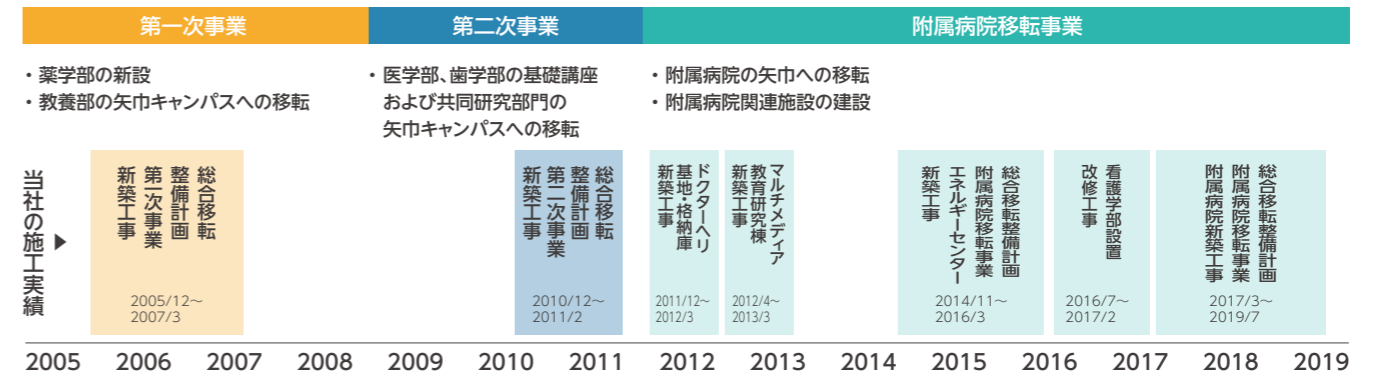
## ■ 岩手医科大学附属病院の紹介

岩手医科大学附属病院は、「患者さんにやさしい病院」をコンセプトに、病床数1,000床、手術室20室を備える国内最大級規模の病院として2019年に建設されました。37万㎡(東京ドーム約8個分)の広大な敷地には、最新鋭の医療機器を備える施設をはじめ、高度救命救急センター、ドクターヘリポートなどの高度・救急医療施設が充実し、また大規模災害などで外部からのエネルギー供給が途絶えた場合でも1週間は電力を供給できるエネルギーセンターも備えるなど、災害対策面も強化されています。



岩手医科大学附属病院概要  
所在地:岩手県紫波郡矢巾町  
医大通二丁目1番1号  
延床面積:86,341.00㎡  
病床数:1,000床

## ■ 移転整備計画に対する当社の関わり



## 主な施工紹介

### 1 総合移転整備計画 第二次事業新築工事



▲二次事業工事中

▶ 解剖実習室における置換換気空調

### 2 総合移転整備計画 附属病院移転事業 エネルギーセンター新築工事



▲エネルギーセンターの全景

▶ 地中熱ヒートポンプシステムの採用

### 3 総合移転整備計画 附属病院移転事業 附属病院新築工事



▲岩手医科大学附属病院全景

▲冷水発生機

▲ターボ冷凍機

▲炉筒埋管ボイラ

## ■ 今後の展望

今回移転された附属病院は高度医療・入院機能を持つ岩手県唯一の特定機能病院として整備されましたが、残された内丸地区の病院は盛岡市中心部の利便性を最大限に活かして、高度診断と術後のケアができる外来病院「内丸メディカルセンター」として整備し、緊急時には附属病院に搬送するなど、緊密な連携体制を備える病院構想をお持ちになっていると聞いています。

当社が長年培ってきた技術力にさらに磨きをかけて、岩手医科大学様と共に地域医療を全力で支え続けていきたいと考えています。

## Voice

### 当社の技術力を遺憾なく発揮

移転整備計画の最終事業となる附属病院の新築工事は工期が27ヵ月にもおよびました。東北支店では過去に例を見ない大規模な工事でしたが、全社的なプロジェクトとして他の事業店からの支援も受けて施工に臨み、当社の技術力を遺憾なく発揮して素晴らしい病院を完成させることができました。現場施工をリードした者として、本病院が地域の皆さまにこよなく愛され、必要とされることを望む次第です。

最後になりますが、本移転事業に関わられたすべての関係者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。



東北支店 技術部長  
菅原 健